

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学 看護学科

陶山 克洋

2026年 4月 27日

1. 教育の責任

本学の理念は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」であり、その考えの基、保健・医療・福祉・教育のヘルスケアシステムを作り、地域の人々の幸せに役立つ人材の育成を目指している。教員は、本学の理念に基づき、地域医療に貢献できるスペシャリストとなる人材育成が重要な役割の1つである。したがって、私は保健医療学部看護学科の教員として、より良い医療を提供するために必須となるエビデンスに基づいた知識と技能の提供を基に、精神保健分野を中心に医療や看護について以下の科目を担当してきた。

《担当科目》

「精神看護学」(必修、講義・演習、2年次後期)
「病態学Ⅳ(精神)」(必修、講義、2年次後期)
「精神看護方法論」(必修、講義、3年次前期)
「慢性期看護実習」(必修、実習、3年次後期)
「ナーシング・プロセスⅡ」(必修、演習、3年次前期)
「基礎基盤実習Ⅰ」(必修、実習、1年次前期)
「統合実習」(必修、実習、4年次前期)
「看護応用ゼミ」(必修、講義、4年次通年)
「チーム医療論」(必修、講義・演習、4年次後期)

2. 私の理念・目的

1) 私の理念とその背景

自身の臨床での精神科看護師の経験において、病気・治療の理解が進まない患者さんに対して指導的・一方的な説明は行わず「なぜ理解できないのか(理解したくないのか)」「どうすればより良い自分になれるのか」という視点を患者さんと共に明らかにしていくことを大切にしていた。そのことは、教育の場面でも重要だと考えている。その様な経験を踏まえた私の教育理念は「看護(特に精神科)の面白さに気付かせる」ということである。しかし、看護の面白さは一概には言えず、また各々の学生が何に関心があるかというものが影響する。逆に言えば精神科の看護に関心がない学生も多くいる。そのため、まずは興味・関心が向けられるよう、特に難しい内容に関しては、理解できるように分かりやすい言葉や身近な例を挙げて説明を行い、学修能力の異なる学生全体に対して広い対象に理解が進むような説明を大切に行っている。これは、教育を受ける側への平等生という理念からも大切にしている部分である。学修へのモチベーションが低い学生に関しては、様々な理由があると考えるが「難しい内容が理解できていないまま次の内容に進んでしまう」事も一要因だと考えられるため、上記方法で進めていくことが有効だと思われる。

以降はチューター活動としての教育的関わりとなるが、学修に身を置くための態勢が整っていない学生の要因として「心身の疾患やその自己療養不足」「プライベートでの生活

上のトラブル」「不適當なストレスコーピング」などが考えられる。これら状況に至る前に対処し、起こった後でも相談に乗り対応と一緒に考えていくことで、それら学生は、机上だけでない学修や医療専門家(看護師)としての経験にもなっていくと考える。その様な経験を活かせる可能性に満ちた看護専門職者を育成していきたいと考えている。

精神看護の専門としてこれまで教育・研究を行っているということもまた、それら学生に関わらなければならないという責務となり、それはまたそれら学生も含めた「メンタルヘルスに悩む人の助けになる」というポリシーとも精通していると考えている。

3. 教育の方法・戦略

●講義・演習等における教育方法では、自身の精神科看護師としての経験と知識を基に知識を更新しての教授

＜具体的方法・戦略＞

座学講義：

・一方的な知識の教授だけでなく、思考させるための題材を提供し学生に応じてもらうような場面の設定等

演習科目：

- ・グループダイナミクスが活用できるようなグループワーク演習
- ・グループ分けでのグループ毎の学修能力の偏りがないようグループ平均 GPA が均等になるよう調整
- ・学修が進まない学生に対する巡回指導時の個別的なフォローの実施

●チューター等での教育方法では、卒業と同時に医療専門家として身に付けておくべき姿勢や態度における学生への直接教授

＜具体的方法・戦略＞

- ・チューターグループに対して、年間 4 回程度の面談を行い学修習慣の確認や面談態度、メール等の対応に関する指導を行っている。また、突発的な要指導学生に対してはその都度面談を行なっている。
- ・特に 4 年生では、就職活動とその後のキャリア支援を含めた確認と指導実施
- ・国試対策における学年全体の分析と対策の実践、そのデータ分析結果を基にした学修方法の確認や指導
- ・模試成績低迷者に対しての個別に面談、学修支援と学修方法についての指導の実施

●教員(後輩)における教育では、これからのキャリアや大学教育・研究における必要な知識や態度の教授

＜具体的方法・戦略＞

- ・委員会等では、大学全体の組織を含めた役割、業務内容とそれに必要な情報や方法等に

ついて及び大学教員としての態度も含めた指導の実践

- ・研究において、自身の研究活動を進めることによる研究能力の向上を基盤に、それを踏まえた研究に必要な知識(研究倫理も含)や技術及び研究者としての態度も含めた指導の実践

4. 学習成果

- ・授業評価アンケート結果における担当単元に関する内容に関して「深くまなぶことができ、興味を持つことができた」「将来の職業として、精神科看護に興味を持てるようになった」等の前向きなコメントと全教科平均よりも高い評価点
- ・統合実習での学生学びのレポートを基に研究を行い、その内容に関する論文のアクセプト

5. 改善のための努力

- ・グループ学修における、グループ学生間の取り組み姿勢のギャップによる(アクティブモチベーション)学生の意見に対して
→対策(努力)
- ・グループ学修の中で、まずは、グループダイナミクスが発揮されていないようなグループを早期に発見できるよう複数の教員で巡回指導
- ・集団力動の弱いグループに対して、積極的に学修が進むようグループ担当教員が関わり、対応が難しい場合は他教員も対応

6. 今後の目標

【長期目標】

講義・演習における学生の学びや満足度を確認するための調査・研究と、その結果に伴う講義・演習の組み立て(達成目標:2026年度末)

【短期目標】

講義・演習の取り組みの内容について学会発表等を行い、授業内容の評価(客観的評価を含)を明らかにする